

100 の証言が語る恐るべき現実

アンゴラ：国外退去されるコンゴ人への組織的レイプと暴力
女性たちの証言



2007年12月



10人の女性、アンゴラでの苦難を語る

毎年、何万ものコンゴ人が、ダイヤモンドが豊富なアンゴラのルンダ・ノルチ州で働くために国境を越えている。

2003年以降、アンゴラ軍はこの「不法な」人口の一部を、定期的にコンゴ民主共和国(DRC)に国外追放してきた。2007年は、既に4万4千人がDRCに強制退去させられたと推定されている。

国境なき医師団(MSF)が既に2004年に非難したとおり、これらの暴力的な国外追放は、一部のアンゴラ軍兵士が広範囲にわたり組織的に行っている、コンゴ人女性に対する性的暴力が特徴となっている。

2007年10月から、アンゴラと国境を接するDRCの西カサイ州で活動中のMSFのチームは、国外追放されたコンゴ人女性100人の証言を集めた。これらの女性たちは、国境の反対側に追放される前にアンゴラ軍が行った虐待、勾留、レイプや殴打の被害について伝えている。

本報告書で、そのうち10件の証言を抜粋する。

MSFの医療援助と心理的支援

2007年10月、アンゴラから追放されたコンゴ人の状況に危機感を募らせたチームは、被害者の援助ニーズを調査するために西カサイ州に赴いた。

性的暴力を受けて生き延びた圧倒的な数の女性たちに対応するために、MSFはアンゴラとの国境に近いカマコに医療施設を設置した。最初は下腹部や下腰部の痛みを訴えることが多いこれらの女性たちは、ここで必要な医療ケアを受け、経験した暴力により生じた心身の外傷に立ち向かうための心理的支援を受けることができる。

加えて、MSFの移動医療チームが定期的に国境沿いを巡回し、医療援助を必要とする人びとを探し出している。MSFはカマコにおいて、呼吸器感染症、皮膚病やマラリアを中心に、女性や子どもを対象とした一次医療診察を1日あたり約100件実施している。



アンゴラ軍兵士にレイプされた後、DRCの西カサイ州、カマコに
国外追放されたコンゴ人女性。2007年11月撮影：© Cédric Gerbehaye/MSF



アンゴラ軍兵士にレイプされた後、DRCの西カサイ州、カマコに
国外追放されたコンゴ人女性。2007年11月撮影：© Cédric Gerbehaye/MSF

証言：カマコにて

**4人の子どもがいる既婚女性(30)。アンゴラのンザジで3ヵ月間過ごす。
2007年9月末に国外追放された。**

朝の6時のことでした。私は家の外で体を洗っていました。主人は家にいませんでした。アンゴラ人と結婚しているとはいえ、追放された時には容赦されませんでした。大勢の兵士がやって来て、私に家を出なければならぬと言いました。きちんと身支度を整える暇すらありませんでした。私はドゥンドに連れていかれ、仮設の刑務所にされている穴の中で2日間過ごしました。

ンザジには、同じく逮捕された人びとが他に58人いました。男性、女性に子どももいました。私はアンゴラには子どもを連れて来なかったもので、独りでした。私がアンゴラで過ごしていた3ヵ月の間、子どもたちはDRCにいました。

刑務所では、水も食糧も全く貰えませんでした。兵士たちはレイプするために、女性を外に連れ出しました。私は2人の兵士に8回レイプされました。彼らは私を刑務所の外に連れ出し、レイプしました。暗かったので、同じ兵士だったかどうかは分かりません。彼らは、私が横になれば殴らないと言ったので、彼らの言いなりになるしかありませんでした。兵士たちはきちんとした身なりをしており、たくさんの弾薬筒を持っていました。もし私が彼らの言いなりになっていなければ、きっと殺されていたでしょう。彼らは私をレイプした後、刑務所に戻しました。

その後、彼らは私たちをトラックで国境に連れて行きました。彼らは言いました。「これからお前たちは故郷に帰るんだ。」私たちは総勢327人で、2台のトラックに分けられました。国境では何も問題はありませんでした。

DRCに戻ってから、私は全く気持ちが安らぎません。下腹部と背中に痛みがあります。体にかゆみもあります。子どもたちと再会することはできました。彼らは元気になっています。私の兄も国外追放され、カマコにいます。私は兄に勾留されていたときの状況を話しましたが、兄は自分のことについてはまだ話してくれません。ここでは安心できません。アンゴラではあまりにも多くの苦しみを経験しました。彼らは私たちのことを動物のように扱いました。これからは、ここで生活する方法を考えなければなりません。

この女性は、腹痛、背痛、皮膚発疹を患っている。

証言：カマコにて

女性(28)。ボーイフレンドと2人の子どものうち1人と暮らしている(もう1人の子どもは亡くなった)。2007年10月に国外追放された。

私は商売をするためにアンゴラに行き、落花生と薫製魚を売っていました。1、2ヵ月アンゴラで過ごしてから、DRCに戻るという生活でした。最後にアンゴラに行ったときに、3人の兵士に待ち伏せされ、レイプされました。

私がマルディにいた時です。兵士たちがやって来て、村を焼き払いました。私たちはあらゆる方向に走って逃げました。私が3人の兵士と鉢合わせになったのはその時です。彼らは私を力づくで連れ去り、次々にレイプしました。恐ろしいほどのショックでした。他の2人が私をレイプしている間、残りの1人が腕をつかんで私を押え込んでいました。

その後、私は林の中に逃げ込みました。マルディから来た他の人たちと会いました。たくさんの方がいましたが、皆疲れきっていました。私たちはお互いに話もしませんでした。何人かは、休むために奥の方にいました。私は8才になる小さな息子を連れていました。子どもを連れた母親は他にもたくさんいました。水も食糧もなく、2週間歩き続けなければなりませんでした。私たち3人は、カンピングの国境に到着しました。そこで私の息子は死にました。彼はそこに埋葬されています。私は、自宅のあるカマコに到着するまで歩き続けました。私は何の援助物資も受け取りませんでした。私が国境に着いた時、大勢の人が援助物資に殺到していましたが、私はとても疲れていたのも何も受け取りませんでした。

それ以来、私は腹部と背中に痛みを抱えています。あの事件以来気分がすぐれず、目眩と頭痛に悩まされています。何日も食事を摂らないこともあります。

この女性は腹部と全身の痛み苦しんでいる。

証言：ルイザにて

女性(44)。5人の子どもと暮らしている。2004年と2007年4月に国外追放された。

私は「農場」と呼ばれている仮設の刑務所に勾留されました。私が国外追放されたのは2004年でした。2006年にアンゴラに戻りましたが、2007年4月に再び国外追放されました。午前1時に兵士たちが家にやってきました。彼らは私たちに、何も持たずに外に出て、軍の収容所まで歩いて行くように命令しました。私は家の中で殴られました。彼らはこう言って私を罵りました。「売女め、盗っ人め、全部置いていけ。何も持っていくな。」軍の収容所では、ダイヤモンド粒子を探すために3日間、腸がからになるまで勾留されました。私たちは、水も食糧も与えられず、部屋の中で排泄させられました。

勾留を逃れようとして命を落とした人もいました。地雷を踏んでしまったのです。流れ弾に当たった人もいました。

私は兵士たちに6回連続で肛門と女性器をレイプされました。彼らは私を罵りました。

私たちはマルディに向かうために「農場」を離れました。マルディまで歩いて3日間かかりました。この3日間、私は1人の兵士にレイプされましたが、彼は私をレイプした後、私を守ってやると言いました。そこにいた女性全員がレイプされました。250人くらいいたと思います。マルディからンザジまでの間には、何も起こりませんでした。私たちは2日間歩き続けました。ンザジでは、2日間刑務所に入れられました。そこで2人の兵士にレイプされ、肛門と女性器の中にダイヤモンドを隠していないかどうか調べられました。

ンザジからフカオマまではトラックで向かいました。トラックに乗るために洋服を脱がなければなりません。車で1時間の距離でした。アンゴラ国境のフカオマでは、1人の兵士に肛門をレイプされ、そのせいで私は出血をしました。彼らは私の所持品を全て取り上げました。

DRCとの国境では何も問題はありませんでした。私たちは温かく迎えられました。私は、3人いる子どものうちの1人をずっと連れて移動しました。残りの2人の子どもはDRCにいました。今は安全だと感じています。

私の名前は登録者リストに載っていましたが、援助物資は何も貰えませんでした。病院にも行きましたが、私は全くお金を持っていませんでした。送還者用の診療所に行くように言われましたが、そこには薬がありませんでした。

この女性は、卵管の痛み苦しんでいる。

証言：サムビアにて

**既婚女性(23)。唯一の子どもは亡くなっている。
アンゴラのマルディで1年半過ごし、2007年7月に国外追放された。**

白人の男性がその鉱山を購入しました。彼は、私たちに鉱山から退去するまでの期限を設けてくれました。その期限が来る前に、コンゴ人とアンゴラ人の混血の若い農夫が、100カラットのダイヤモンドをいくつか見つけました。アンゴラ政府は、そのダイヤモンドを売っていた彼を逮捕しました。彼らはこの農夫に、ダイヤモンドをどこの鉱山で見つけたのかと質問しました。農夫は、マルディの鉱山で見つけたと答えました。政府は、兵士たちに家を焼き払ってコンゴ人を全員追い出すように命令しました。兵士たちは、私たちに所持品を置いて退去するように命じ、所持品を川に投げ捨ててしまいました。兵士たちは私たちを捕らえました。男性、女性、子どもを合わせて千人以上いました。兵士たちは私たちを殴り始めました。私たちは軍に連れられてマルディからンザジに向かい、3日間歩き続けました。途中で兵士が1人、私に皆の前で地面に横になるように命令し、私をレイプしました。私は毎日、検問所を通過する前に兵士にレイプされました。彼らは言いました。「貧しい奴らだ、盗っ人め、お前らの大統領は無一文じゃないか。」レイプされた後、私は棒切れや縄で叩かれました。この3日間に、全員の女性が私と同じ扱いを受けたと証言できます。

私たちは午後7時にンザジに到着しました。彼らは私たちを仮設の刑務所に入れました。そこには、スペースがほとんどありませんでした。立っている人もいましたが、座るだけの場所を見つけることができました人もいました。兵士たちは食糧や水を何もくれず、私たちは自分が立っている所や座っている所で排泄しなければなりません。勾留中にレイプはありませんでした。男性1人と女性2人が酸欠で亡くなりました。私たちは刑務所で一夜を過ごし、翌日の午後1時に出発しました。道中、何組かの送還者の集団と合流し、兵士たちは私たちをトラックに乗せました。アンゴラの国境に着くまでに3時間かかりました。国境の反対側のカブアカラではコンゴ人兵士が待っていたので、アンゴラ人兵士たちは私たちに何も危害を加えませんでした。

カブアカラに到着すると、コンゴ人兵士が私たちに食糧をくれました。私の名前は登録者リストにありましたが、何も援助物資を貰えませんでした。援助物資が配布された日、物資は地元の人びとに配られました。私は健康診断を受け、カタンガ州のカパンガに行き手術を受けました。私は子宮外妊娠しており、嚢包ができていました。

ここで辛いことがあっても、アンゴラには二度と戻りたくありません。

証言：サムブイアにて

**子ども 1 人がいる女性(20)。2003 年にアンゴラから国外追放された。
2007 年 7 月に、アンゴラのマルディから再び国外追放された。**

兵士たちが来て、家々を焼き払いました。兵士たちは私を捕まえ、殴りつけました。殴られたのは主に下腹部です。彼らは私のことを「貧乏なコンゴ人の淫売女」と呼びました。彼らは、徒歩で 4 日間かけて私たちをンザジまで連れて行きました。

最初の日に、私は 3 人の兵士に次々と肛門と女性器をレイプされました。3 日目には、旅の途中、皆の目の前で 4 人の警官にレイプされました。全員の女性が同じ扱いを受けました。女性は 70 人いました。

4 日目には、4 人の兵士が私を掴みました。私が彼らと同じ方言を話したので、2 人の兵士は私に触れることを拒み、どこかへ行ってしまいました。他の 2 人は私をトイレに連れて行き、レイプしました。彼らはブーツで私の背中や横腹を蹴りました。私はンザジに着き、刑務所で 2 時間過ごしました。

兵士たちは私たちを満員の 10 輪トラックに乗せ、3 時間かけてフカオマまで運びました。フカオマからカブアカラまで、私たちは 3 時間歩きました。この時には何も起こりませんでした。アンゴラの国境で、兵士たちは男性と女性を分け、コンドームも付けずに次々と「肛門と女性器の検査」を行いました。女性たちは 70 人いました。

その後、私は診察を受けるお金を十分持っていなかったため、自分で治療することにしました。

ここでは安全で、安心できると思います。ここに定住したいと思っていますが、もし主人が電話してきて状況が落ち着いたことが確認できれば、またアンゴラに戻ると思います。



アンゴラ軍兵士にレイプされた後、DRCの西カサイ州、カマコに
国外追放されたコンゴ人女性。2007年11月撮影：© Cédric Gerbehaye/MSF

証言：サムブイア

3人の子どもと暮らす独身女性(34)。アンゴラのマルディで2ヵ月を過ごした後、2007年5月に国外追放された。

朝4時に、6人の兵士からなる一団が家に入ってきました。私は友人と家にいました。「アンゴラから出て行け。お前たちは俺たちから全てを奪った。コンゴへ行って、飢え死にするがいい。」と言いながら、兵士たちは私たちを侮辱し、体中をライフルの銃床で殴打しました。私に横たわるように命令し、6人の兵士が次々に私をレイプしました。友人にも同じことをしました。私と友人は国外追放された他の人びとに合流しました。4日間歩き続け、カッサ・マイにたどり着いたのです。

私たちは軍の駐屯地4ヵ所を通過しました。最初の2ヵ所は何事もなく通過できましたが、3ヵ所目で私たちはレイプされました。私たち15人全員が、2人の兵士に、です。「俺たちはお前たちが戻って来ないようにレイプするのだ。このことを他の奴らにも伝えておけ。」と言われました。私が思うに、レイプは私たちが戻らないようにするための彼らの武器なのです。私たちは4時間にわたって拘束されました。4ヵ所目は問題ありませんでした。私たちはDRCのカッサ・マイに着きました。着いた時、プラスチックシートを渡されました。マスイラの病院で婦人科の検診を受けました。2500コンゴ・フランを支払う必要がありました。注射を打たれました。

私はもう二度とアンゴラに戻りたくありません。アンゴラにはあまりにも苦しみがあり過ぎます。

この女性は卵管の痛みを苦しんでいる。

証言：サムビアにて

4人の子どもがいる既婚女性(31)。マルディで4年過ごした後、2007年5月に国外追放された。

午後7時に、兵士たちがトラックでやって来ました。大部隊でした。私の夫は逃げていきました。自分たちの妻がレイプされるのを見たくないために、男たちは逃げてしまうのです。それにほとんどの場合、妻たちの目の前では男たちはさらに激しく殴りつけられます。4人の兵士が家に来て、私を棒で殴り始めました。私に横たわるように命ずると、兵士たちは次々と私の肛門と女性器をレイプしました。その後、私は子どもたちと仮設の刑務所に連行され、そこで4日間を過ごしました。食糧も水も、何も与えられませんでした。刑務所には他に8人の男性と4人の女性、そして子どもたちがいましたが、排泄も部屋の中でさせられました。最初の3日間、私は毎日4人の兵士に殴られ、レイプされました。いつも同じ兵士たちでした。他の女性たちも同じことをされていました。彼らは私たちを侮辱して言いました。「奴らの胸を見ろ。尻を見ろ。お前たちは何もかもここに置いていくんだぞ。」

私たちは12日間歩き続け、4カ所の検問所を通りました。最初の検問所で私たちは全員ひどく殴られた後、通行を許されました。2カ所目の検問所でも同じように殴られました。私は1人の兵士に兵舎に連れ込まれ、レイプされました。他の女性たちも同じ目に遭いました。同じことが3カ所目の検問所でも起きました。4カ所目の検問所で、2人の兵士が道端で私をレイプしました。他の女性たちも同様でした。

2カ所の国境では何事も起こりませんでした。私はカッサ・マイからDRCに再入国しました。カッサ・マイを通過したすぐ後、私の5才の息子は極度の疲労のため命を落としました。息子の遺体は草むらに投げ捨てられました。支払うお金がないので、私は何の検診も受けていません。

夫からは何の音沙汰もありません。彼がまだ活着ているのかも分かりません。あの苦しみを考えると、二度とアンゴラには戻りたくありません。

証言：サムブイアにて

子どもが3人いる既婚の女性(30)。ムブジで5年間過ごした後、
2007年7月に国外追放された。

ライフルの銃声を聞いたのは火曜日の真夜中でした。私たちはいったい何が起こるのだろうと息を潜めていました。銃声を聞くのは珍しいことではなかったのです。でも、銃声が私たちの方に近づいてくことに気づくと、私は子どもたちと義理の弟と一緒に茂みに逃げました。

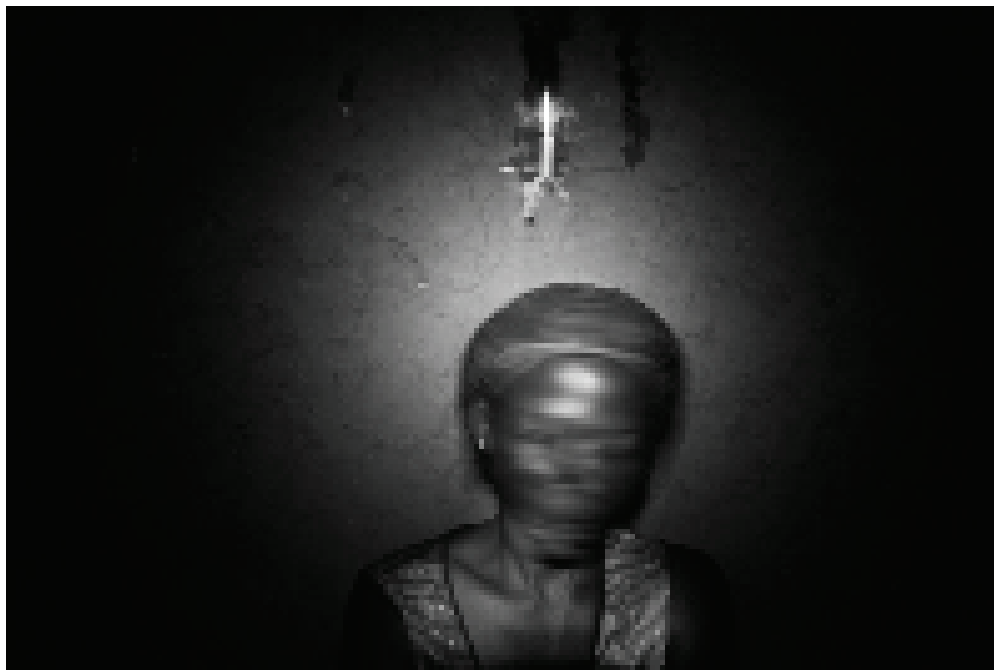
私たちはトラックに乗った兵士たちに追いつかれました。3人の兵士が、生きていか死にたいかと私に尋ねました。横たわるように命ずると、次々と私をレイプしました。私たちをトラックに乗せると、サマクマの検問所まで連れて行きました。彼らは私たちを男女別々に拘留しました。男性は戸外の囲いの中、女性は仮設の刑務所の中です。部屋には50人以上の女性がいました。

そこで一晩過ごしました。何人かの兵士が刑務所に入ってくると、全ての女性の肛門や性器を次々と素手で検査しました。私たちが持っていた物は見つけ次第全て奪われました。2人の兵士が私に横たわるように命じ、次々とレイプしました。他の女性たちもレイプされました。部屋の中にいた女性の数よりも多くの兵士がいました。朝になると、彼らは私たちを解放しました。私たちは2人の兵士と共に検問所を出ました。サマクマは2カ所目の検問所です。最初の検問所には止まらずに、トラックで通過しました。

3カ所目の検問所まで1日歩きました。2カ所目の検問所から一緒だった兵士たちは立ち去りました。3カ所目の検問所には20人の兵士がいました。男性は見張られながら、検問所の前の戸外で拘留されていました。兵士たちのために木を切るなど、さまざまな仕事をさせられていました。女性は仮設の刑務所に入れられました。1人の兵士が私をレイプしようとしたのですが、私は拒みましたが、すると彼は私を縛りつけ、レイプしました。兵士たちは、抵抗すればナタで斬ると私たちを脅しました。逃げようとしたため、私は縛り付けられていたロープで負傷しました。他の女性たちも、皆レイプされました。

翌朝、彼らは女性だけを解放しました。男性たちの一部は午後に開放されましたが、残された男性たちは強制的にアンゴラ軍に入隊させられました。アンゴラの国境に着いた時には何事も起きませんでした。DRCの国境では、兵士や役人たちに所持品を渡すよう要求されました。でも私たちは何も持っていなかったため、そのまま通行を許されました。

私はカッサ・マイからDRCに再入国しました。何の援助も受けていません。お金もないので、検診も受けられません。アンゴラで起こったことを思い出すと、とても辛くなります。アンゴラに戻りたいなどとは思いません。



アンゴラ軍兵士にレイプされた後、DRCの西カサイ州、カマコに国外追放されたコンゴ人女性。2007年11月撮影：© Cédric Gerbehaye/MSF



アンゴラ軍兵士にレイプされた後、DRCの西カサイ州、カマコに国外追放されたコンゴ人女性。2007年11月撮影：© Cédric Gerbehaye/MSF

証言：サムブイアにて

5人の子供がいる既婚女性(45)。ムブジで2年間過ごした後、2007年5月に国外追放された。

夜、兵士たちがドアを叩きました。10人の兵士がいました。夫が出ていくと、彼らは夫を殴り始めました。こん棒や棒で私のことも殴り始めました。彼らは男性と女性を分けると、男を1台のトラックに押し込め、女性を別なトラックに子どもたちと一緒に乗せました。

私は最初の検問所に連れて行かれ、仮設の刑務所に入れられました。子どもを連れた女性が他に4人いました。そこには4日間いました。最初の日、私たちはこん棒などで殴られ、私は2人の兵士に肛門と女性器をレイプされました。2日目、3日目も、2人の兵士にレイプされました。4日目には5人の兵士がレイプしました。抵抗すればさらに私に危害を加えるのではと恐ろしく、抵抗はしませんでした。他の女性たちも同様に毎日、1日に何回もレイプされました。4日目に3人の兵士と一緒に、私たちは歩いて2カ所の検問所に行きました。

その途中も彼らは私たちを殴り、道端で2人の兵士が私をレイプしました。2カ所目の検問所に着くと、3人の兵士は立ち去りました。仮設の刑務所で一晩を過ごしましたが、私は3人の兵士にレイプされました。翌朝、国外追放される他のコンゴ人男性たちとともに解放されました。兵士の同行はもうありませんでした。

私たちはもう1日歩いて、3カ所目の検問所に行きました。そこで一晩過ごしましたが、私は1人の兵士にレイプされ、他の3人の女性たちも同様にレイプされました。朝になって、私たちは解放されました。国境まで2日間歩きました。

2カ所の国境では何事も起こりませんでした。私はマエンヤ・ムブルからDRCに再入国し、診察を受けに行きました。診療所へ行き、診察代として2800コンゴ・フランを支払いました。他には何の援助も受けていません。

アンゴラで起きたことは忘れません。たとえ彼らが牛をくれると言っても、私はアンゴラには戻りません。ここで死んだ方がましです。

証言：カマコにて

3人の子どもがいる既婚女性(40)。2007年11月に国外追放された。

私は、夫と子どもたちと一緒に家にいました。お昼頃に銃声が聞こえました。私は子どもたちを逃げさせました。夫も逃げました。7人の兵士がやって来て、私たちを威嚇するために空に向かって銃を撃ち、子どもたちにライフルを向けました。私たちは拘束され、トラックで国境まで連れて行かれました。トラックの中で兵士たちは、私の一番若い8才の子どもで遊んでいました。子どもをボールのように投げるのです。1人の兵士が私を紐で殴りましたが、私が子どもと一緒にだからと別な兵士が止めに入りました。私は他の女性たちが虐待されているのを見ました。トラックには女性が17人、男性が10人、子どもが10人乗っていました。

国境までの移動の間にトラックは何度か停車しました。1人の全身黒づくめの兵士が、何人かの女性をレイプしました。他の兵士たちも女性をレイプしていました。彼らはトラックを止め、レイプするために森へ女性たちを連れて行きました。その後またトラックは走り出すのです。このようにして移動は2日間続きました。彼らは子どもたちには手を触れませんでした。子どもたちと一緒にだったため、私はレイプされませんでした。あまりにも病気がひどいため、私の妹もレイプされませんでした。兵士たちはそう言いました。私の母のことは、レイプするには年を取りすぎているといいました。私たちは何の食糧も水も貰えませんでした。

国境で、彼らは私たちをカマコに残して去りました。私はそこで小麦粉2箱をもらいました。トラックに乗っていた人びとは、ある者はチカパへ、またある者はカナンガへと、皆別々な場所を目指しました。国外追放された他の人びとについて、私が他に知っていることはありません。私はここで夫と再会することができました。

私は二度とアンゴラには戻りません。あまりにも多くの苦しみを目の当たりにしました。